

よしきい

2023年 盛夏号



ヨシの枝にとまるセツカ

目次

公園の風景

- ・裁縫をする鳥 1
- ・シルビアシジミ 1
- ・雷魚捕ったどー! 1

木々と木の実と野鳥の話③

みんなのひろば

- ・くさいのに〜? 2

活動紹介

- ・春にもアサギマダラ♪ 3
- ・今年の「夏・子」 3

発行：「葦の会」機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 10509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

mail ashinokai.kirara@gmail.com

HP ashinokai.html.xdomain.jp

「葦の会」はきらら浜自然観察公園で活動するボランティアグループです。自然を楽しみながら、その素晴らしさを一緒に学び伝えていきませんか？

会員募集中！（高校生以上）



公園の風景



= 裁縫をする鳥 =

クモの糸を啜るセッカ

スズメに似た小さい鳥、セッカ。公園ではヨシ原に住み、冬の間は目立ちませんが、春から夏にかけての繁殖期、「ヒッヒッヒッヒッ」「チャッチャッチャッチャッ」と鳴きながら飛び回る姿がよく見られます。この繁殖期にオスは草やススキの葉などをクモの糸（卵のう）を使って巣を作ります。嘴でヨシなどの葉の縁に穴を開けてほぐした糸を通し、それを何度も繰り返して葉と葉をしっかりと縫い合わせます。何と糸の端に玉留めまでするそうですよ。日本人カメラマンが世界で初めて撮影に成功した驚異的なこの様子は、2022年にNHK「ダーウィンが来た」で放映されました。

巣は地面に近い、低い所に作られるのでヘビやイタチなどに襲われやすく、子育ての成功率は約30%。子孫を残すため、オスはこの手間のかかる巣を何ヶ所にも作り、複数のメスがそれぞれ気に入った巣にチガヤの穂などを運び込んで子育ての準備をします。

ミヤコグサの蜜を吸うシルビアシジミ

= シルビアシジミ =



公園を散歩していると、黄色い花に1.5センチほどの小さな蝶がとまっていました。たまたまそばにおられた昆虫に詳しい方にこの蝶は絶滅危惧種の「シルビアシジミ」だと教えていただきました。よく見るヤマトシジミとそっくりで見間違いやすいですが、園内にはあちこちにシルビアシジミが好むミヤコグサが生えているので、そんな珍しい蝶に出会えたようです。今度は羽を広げた時の写真のようなブルーを是非見てみたい！

= 雷魚捕ったどー！ =



6月17日（土）、梅雨の中休みで30℃も越えそうな天気の中、「外来生物捕獲作戦」が実行されました。9時30分過ぎから参加者はビジターセンター前に集合。積水ハウス社員とその家族の、大人19名子供8名、葦の会から9名が参加しました。

雷魚は大正時代に食用を目的として輸入された外来魚で、小魚やカエルなどを貪欲に食べるため生態系に悪影響を及ぼすこと、流れのない河川やクリーク、水面が藻などに覆われた所に住むことなどの説明をレンジャーから受けた後、

網と会員のSさんが用意した釣り竿を手に、各々園内に散って行きました。11時頃無線機に入った「雷魚発見！」の声。「2か所に仕掛けていた罫に1匹ずつ入っていたのを捕獲」の後はしばらく連絡なし。11時半ごろ、「釣れた

ー！」の喜びの声が無線機から聞こえ駆け付ける。葦の会の会員がその瞬間の一部始終を動画で撮影していました。捕獲のポイントは、餌のミミズが水底に届くようにすること。大量の藻に邪魔され、ミミズを雷魚のいる水底まで届かせるのにみんな四苦八苦。Sさんは藻を手でかき分けて釣り糸を垂れ、大物を釣り上げました。



木々と木の実と野鳥の話 ③

ヤマモモの木が公園の正門入口からビジターセンターへの道沿いに何本も植わっています。普段は地味な木で目にとまりませんが、3～4月に細長い葉の脇から赤茶色の、毛虫のように見える花穂を出し、密集した小花を咲かせます。6～7月には赤い宝石のようなみずみずしい実をつけ存在感を発揮します。ムクドリなどが集団でやって来ると、あっという間に食べ尽くされてしまいそうですが、公園のヤマモモはなぜか無事。熟しておいしそうな実も地面にたくさん落ちてそのままになっています。園長によると、子育ての時期には芋虫や昆虫など動物性の餌が主体で、鳥たちはフルーツにはあまり興味を示さないが、ヒナが巣立ちをするとカラスやムクドリは食べにくるとのこと。

甘酸っぱいやまももの実が食べごろになるのを今か今かと待っているのは人間だけかもしれませんね。



大きな実を丸飲みするムクドリ

みんなのひろば😊

くさいのに～？

私はパクチーがとっても好きで、焼き肉や餃子と一緒に食べたりします。でもほとんどのスーパーで売ってなくてがっかりすることが多々あります。ある日、パクチーの小さな苗を売っているのを見かけ、「売ってないなら自分で育ててみよう！」と買って帰りました。大切に育てていると、食べるのが可哀想になってきました。そうこうしているうちに、どんどん伸びて、何ということでしょう！とっても可憐で可愛い花が咲いたのです！

パクチーは独特な香りで苦手な方も多いかと思いますが、臭いのに、こんなにきれいな花が咲くんですよ～。育ててみないとわからなかった事なので、ちょっと得した気分です。結局食べてはいませんが、食べたいな～（笑）（M.F）



活動紹介

= 春にもアサギマダラ♪ =

アサギマダラの誘致を目指し、2年前から園内に植えて世話してきたフジバカマが昨年の秋に花を咲かせました。皆が待ち望んだアサギマダラは「ただの一頭 されど一頭」でしたが、めげずに今年も秋の飛来を目指し、草取りなどの手入れをしているところです。



春に咲く「スナビキソウ」という花もアサギマダラが好むと聞き、欲張りになった会員たちは5月21日（日）、その花が群生しているという仙崎の沖の青海島へ、春の研修旅行として向かいました。日本海に面した砂浜に目立つこともなく咲いている小さな白い花と初対面。比較的肉厚な葉が株を作り、浜辺のあちこちに点在していました。秋だけでなく春の公園に飛来するアサギマダラを皆さんに見て頂ける場面を思い描きながら、近い将来の実現を目指したいと思えます。



= 今年の「夏・子」=

「夏・子」こと「夏休み子ども自然観察会」を毎年開催している葦の会と国立環境研究所とのコラボで、今年は7月22（土）「これって気候変動？」と題したワークショップを行います。同研究所気候変動適応センターの辻本先生による講演のあと、昆虫や植物を観察しながら温暖化が身近な生き物に及ぼす影響などについて考えてもらいます。

<俳句教室 最多選句>

・行く皆の耳目を集め行々子

清子

・風董り漫ろ歩きの池の旗

敬子

・ひとときを蟹とたわむる句会かな

貞代

・釣り糸をたれる親子や風董る

和子



5月

6月

<編集後記>

暑い！は言わないことにします（？）が、進む温暖化で生態系も変わりつつあるのは確かなようです。機関誌チームに新しいメンバーが2人加わりました。今までとは違った視点での記事をお楽しみに。「みんなの広場」へのご投稿もお待ちしています。ashinokai.kirara@gmail.com まで。 (nimu)